

2000年は自然災害（洪水，火山，地震）の年か

北海道支所長 梁瀬秀雄

わが国は水資源に恵まれた国で、浪費することを「湯水のように使う」というように、古来水を思う存分使うことができた。確かに日本は世界的に見て大変雨に恵まれているが、年間を通して見ると、季節的に大きなバラツキがある。そのため、毎年のように梅雨期，台風期，降雪期等には洪水，土砂災害が発生し，逆に長期間降雨のない日が続くと水不足に悩まされている。

今年の6～8月は全国的に記録的な猛暑となったが，その反面各地で水・土砂災害が発生した。9月には多数の浸水家屋を出した名古屋での記録的豪雨があった。このときは南高北低の気圧配置が原因となって東海・甲信地方のみならず，全国的に多雨となって北から南まで各地で洪水，山崩れが発生した。そして，北海道有珠山が3月31日に23年振りに噴火したのをはじめとして，北は十勝岳から南は桜島まで日本各地での活火山の活動がニュースとしてとりあげられた，東京都伊豆諸島では6月26日に三宅島そして神津島，新島周辺で群発地震が活発化し，7月8日に三宅島雄山が噴火した。三宅島で緊急火山情報が出されてから67日目の9月1日に噴火，降灰で苦しむ人々に対して全島避難の指示が出され，9月4日には人口約4,000人の島民全員の避難が完了した。船上から涙ながらに三宅島を惜しんで離れていく姿のなんと痛ましいことか，いまもって多くの人々が苦難な生活を強いられている。さらに，阪神大震災に匹敵するマグニチュード7級の鳥取県西部地震が10月6日に発生し，その後も断続的な余震が続き鳥取，島根両県で約2,200人が避難所で不安な日々を迎えた。

火山国日本，この狭い日本には世界の約1割に相当する77（北方領土を除くと67）の活火山がある。そのうち北海道には11の活火山がある。気象庁の常時観測火山として駒ヶ岳，有珠山，樽前山，十勝岳，雌阿寒岳の五つがあげられるが，火山周辺のハザードマップを備えるなど北海道は火山防災の先進地ともいわれている。長崎県雲仙普賢岳の噴火や阪神大地震時では災害情報の大切さ，あり方が問題となったが，有珠山噴火ではそれらが災害対策の教訓として活かされ，有珠山噴火での長年地道に観測してきた豊富なデータに基づいた火山噴火予知と迅速な行政対応によって約13,000人の住民が整然と避難して，火山防災の手本となった。現在有珠山周辺の復興計画が進んでいるが，専門家の科学的な判断，行政間の連携，住民の協力，そして多くの人々の支援のもとに，50年，100年先を見据えた復興対策を目指し，後世につなげていきたいものである。

2000年はシドニーオリンピックが開催され，20世紀と21世紀のつなぎの年として記念すべき年であるが，日本の自然災害史から見ると多難な年であった。地球の年齢は45億歳，地球が長い年月をかけて作り上げた森林等の環境的財産を私たちは短期間で食い潰しつつある。そのために，私たちは自然の恵みを十分に享受しているが，絶えず自然からの脅威に晒されている。今後いかに私たちが自然と共生を図っていかなければならないかが21世紀に向かった命題である。



[巻頭言][[シリーズ](#)][[研究解説1](#)][[研究解説2](#)][[お知らせ](#)]

[[所報トップページへ](#)]